

卒業生教員・川上紗誉先生によるご講演概要

A Brief Summary of Ms.Kawakami's Lecture

白井 由美子

SHIRAI Yumiko

神戸女学院大学文学部英文学科准教授
Department of English, School of Letters, Kobe College
shirai@mail.kobe-c.ac.jp

キーワード：高等学校、教員、授業、クラブ
Key words: high schools, teachers, classes, club activities

2016年11月3日(木)

1限『教職実践演習(英語)』及び3限『英語科教育法Ⅱ』
姫路市立姫路高等学校常勤講師 川上 紗誉先生

<卒業生教員(2016年3月卒業)>

3月に卒業したばかりの川上先生に4年次対象の教職実践演習(英語)と3年次対象の英語科教育法Ⅱの授業にお越し頂いて、4月から常勤講師としての勤務の中から得られたことに基づいたお話を頂きました。

現在、高校2年生を担当しておられるとのことで、授業は共に作り上げていく感じで進めておられるとのこと。最近教科書の内容もいわゆるストーリー物ではなく、社会問題を扱う内容が中心となっており、普段から教員自身が社会問題や世の中での流行等に敏感になっておく必要があるとのことでした。さらに、今起きている社会問題等にまつわる言葉の英単語も勉強しておく必要があるので、英字新聞等にも目を通しておくようにとのことでした。例えば、**biomimetic**の内容を授業で扱われた時のこと。**biomimetic**に関してあまり詳しくなかったため、自分でこのことについて勉強し、教科書で扱われている内容以外にも情報を生徒に伝えることが出来るようにしたという報告がありました。

次に部活動についてです。部活動はバドミントン部を担当しているとのこと。副顧問として活動しておられるそうですが、実際には顧問は高校3年生の担

任で忙しいため、自分が主となって活動をしておられるそうです。川上先生ご自身もかつてバドミントンをしておられたため、生徒と打ち合うこともあるとか。しかし、部活動の試合等で土、日も出勤となることもあり、担任は持っていないなくても、色々と生徒のために時間を取られるのが現実だそうです。

さらに、放課後は若手の教員が、部活動を終えた生徒の見送りを正門前で行っているため、自分の時間は部活動が終わってからということになるそうです。そしてその時間も教材研究を優先するため、教員採用試験のための勉強が後回しになってしまうとのこと。このように、働き始めると生徒指導、校務分掌等、大学時代には見えなかったことに直面して、そこから学ぶことも多いが、勉強時間が取れなくなるので、大学時代に教員採用試験のための教職教養や一般教養の勉強はしておくことをお勧めしますというお話でした。

3年次学生対象の英語科教育法の授業では、上の話に加えて、実際に模擬授業を次週に控えた学生に授業の指導を行って頂きました。授業では出来る限り英語を使うように、また、生徒への語りかけの方法、板書の注意点、立ち位置等、熱心にご指導頂きました。ただ、実際の授業では **Lesson Plan** を作成して授業に臨んでも予想外のことが起きるので、そのためにも教材研究を十分にしておくことと、生徒が間違えそうな個所をきちんと想定して臨むことの大切さを教えて下さいました。また、川上先生ご自身が、教師と生徒の発言を全て書くという台本形式の本学の英語科教育法で作成した **Lesson Plan** の書式に慣れておられるため、勤め始めてからもこのような形式の **Lesson Plan** を作成していらっしゃるとのこと。この形式で作成することによって、常に生徒側に立った授業展開を考えることが出来ているというお言葉を頂き、3年次学生の励みにもなりました。